

# 市民俳歌柳壇

ミヤリマークは  
ジュニアの句・首です。

## 俳壇 星田一草 選

◎選評 正岡子規の松山、松尾芭蕉の伊賀などなど。俳人ゆかりの地はそれぞれの俳人をしのぶ格好の地である。薄曇のやや疲れを感じた折、そこに立つ投句箱に触発され、創作意欲が湧き、一句を投じたのである。見聞したことのある城下町の風情がありありと浮かんでくる。

算数や一年生のさくらんぼ  
下田原町 五十嵐由美子

登山帽脱ぎ湖風にまぎれけり  
双葉一丁目 大島 志朗

心太ほのかに海の風味かな  
一の沢二丁目 豊坂 正

夕立やびしよねれになる気持ちよき  
宇都宮東高等学校附属中学校 小平 響生

## 柳壇 荒井宗明 選

◎選評 免許証を返した。長い間、苦業を共にした戦友と別れたようなむなしさだった。免許証も同じ気持ちだったに違いない。そして、「これからは、二本の足を私だと思ってください。」と言う、車の声を聞いたような気がした。

朝顔の蔓やわやわと左巻き  
中今泉5丁目 丸田 守

早起きのラジオ体操犬も来る  
鶴田町 御牧 秀世

蟻の列乱れながらも続きあり  
一番町 石田武三郎

流れ星両手を合わせて願おうよ  
横川中央小学校 上田 桃彩

免許証返し二本の足となる  
●中岡本町 生井 厚美

## 歌壇 安野登美子 選

◎選評 初句「助詞一つ」これから述べようとする内容の重さを予感させ、歌い出しの言葉の力を感じる。作歌の途上、助詞一つにこだわり、一夜悶々と悩む。静かな夜は小雨の降る音までに聴覚が鋭くなる。短歌を読む上で助詞(て、に、を、は)を適切に使うことにより一首の声調が生まれる。地道に作歌している姿が見えてうれい一首に出会った。

助詞一つ考えあぐね寝そびれて  
●東浦町 合田アヤ子

夜のしじまの小雨ききをり

また一人降りて吊り皮揺れている  
●文月の戦場ヶ原に侍めば  
雄々しき男体激しく迫る  
花園町 小林 秀行

レールの響き明日へとつづく  
●短冊に願いを込めたこの思い  
笹の葉にのり天空まで届け  
若松原中学校 横塚伸太郎

平成の豊かな時を育ちゆく  
●元氣な宮つ子明日を担ふも  
泉町 秋野 毅

## うつのみやの 歴史を紐解く物語

## 第5回 文武に秀でた 宇都宮氏の本拠地 うつのみや



■源頼朝と宇都宮朝綱 宇都宮氏は、宇都宮明神(二荒山神社)の社務職を兼ねながら宇都宮の地を治めた武将です。3代朝綱は、源頼朝の挙兵を助け、鎌倉幕府の樹立に大きく貢献しました。頼朝が弟の義経を追って奥州に向かった際には、宇都宮明神で戦勝祈願を行い、朝綱もその軍に加わり手柄を立てています。

■百人一首と蓮生 5代頼綱(後の蓮生)は、当代随一の歌人藤原定家と親交があり、出家して京都に居を構えた際に、その山荘のふすまに貼る色紙和歌を定家に百首選んでもらいました。これが後の「百人一首」の元になったといわれています。宇都宮氏は独自に歌壇をつくり、和歌集を編さんするなど、文化面でも秀でた武将でした。



▲うつのみや 百人一首市民大会

■武勇に秀でた宇都宮氏 8代貞綱は、元軍の襲来に対し約6万人の兵を率い、日本の総大将として九州に出陣しました。また、9代公綱は、知将として名高い楠木正成と戦い、「坂東一の弓矢とり」と評され、宇都宮氏の武勇は全国的にも知れ渡っていました。さらに、10代氏綱は、足利尊氏を助け、上野(群馬県)・越後(新潟県)の2カ国の守護職を務めました。

■宇都宮氏の終えんとその後 このように宇都宮氏は、文武に秀でた伝統ある一族でしたが、22代国綱の代に豊臣秀吉により改易され、その地位を解かれてしまいます。しかし、宇都宮氏の旧臣たちは土地に住み続け、その後の地域の発展を支えました。また、宇都宮氏が種をまいた「百人一首」は、宇都宮で百人一首全国大会が開かれるなど、今日も多くの人々に愛され続けています。

◎文化課 ☎(632)2764

◎俳歌柳壇 応募方法 1人に付き俳句3句、短歌3首、川柳3句以内。対象は市内在住の人で、未発表作品に限ります。はがきに、作品(漢字にはふりがなも付けて)・住所・氏名(ふりがな)・応募する壇名を書き、毎月20日(消印有効)までに、〒320-8540市役所広報広聴課へ。俳句・短歌・川柳の併記は不可。市内に在住か通学している小・中学生からも応募をお待ちしています。◎広報広聴課 ☎(632)2028

文化・教養  
スピーカー

ページ番号を市HPのトップページで入力してみよう。  
関連ページが見られるよ。